

史料群番号 24

| | | | |
|-------|---|--------|------|
| 史料群名 | ふじがさきけんいち 藤崎謙一家文書 | 旧所蔵者 | 藤崎謙一 |
| 採訪時住所 | 茨城県行方郡麻生町 | | |
| 現在の住所 | 茨城県行方市麻生 | | |
| 採訪年月 | 昭和26（1951）年7月 | | |
| 史料の年代 | 宝暦5（1755）年～大正4（1915）年 | 史料の総点数 | 33点 |
| 年代の内訳 | 近世 20点/近代 13点 | 筆写稿本 | なし |
| 既刊行目録 | 「昭和五十年三月 水産庁水産資料館所蔵古文書目録- 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」「平成十八年三月 水産総合研究センター所蔵古文書目録-福島県・茨城県・栃木県・千葉県関係史料- 水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所」 | | |

収蔵にいたる経緯

昭和26年7月に採訪され、寄贈の手続きがとられた。その際の史料数は採訪書類によれば、帳簿31点だが、水産資料館で行われた整理（旧整理）で37点となっている。常陸国新治郡神立村関係とみられる史料が4点あり、これらは他家史料の混入と見られるので、「茨城県関係文書」という別史料群として扱うこととした。それでも採訪書類の31点より2点多い33点となるが、これは整理の仕方によるものであり、採訪から現在まで史料の散逸、移動はなかったと考えられる。

史料群の概要

採訪地の麻生は、霞ヶ浦と北浦の間にあり、近世は常陸国行方（なめかた）郡麻生村があって、麻生藩の陣屋が置かれていた。明治22年に麻生町となり、平成17年に行方市となった。

本史料群は、元々麻生藩士として代々郡奉行などを勤めた永井家に伝えられたものである。永井家から藤崎家に嫁した旧所有者謙一氏の母が、夫との死別によって実家に戻り、藤崎家を名のつたため、永井家の史料が藤崎家に残ることになった。史料は大別すると、麻生藩の藩政に関するもの、明治期の戸長役場に関するもの、明治初期における旧藩士の生産活動に関するものである。

なお、本史料群の詳細については「水産総合研究センター所蔵古文書目録」を参照していただきたい。

